

令和4年度島根県「水と緑の森づくり」アンケート調査について（概要）

【趣旨】

島根県の水と緑の森づくり税のあり方や水と緑の森づくり事業について県民の森づくりに対する思いや、期待等を把握するためにアンケート調査を実施する。

【実施方法】

（1）調査項目

- ① 水と緑の森づくりについて
- ② その他

（2）調査対象

- ① 母集団 島根県内の市町村に居住する満18歳以上の男女
- ② 標本数 2,000人
- ③ 抽出法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出法

（3）調査方法

- ① 郵送法（郵送配布ー郵送回収）またはしまね電子申請サービスによる
- ② 調査期間：令和4年12月2日～12月15日

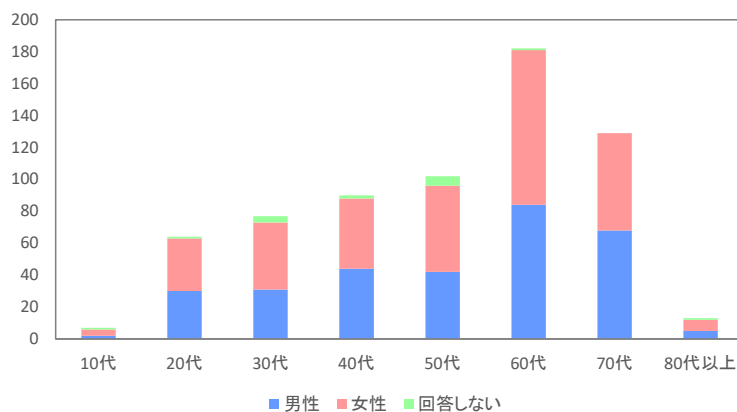
（4）実施

- ① 事業主体：島根県林業課
- ② 調査票発送：株式会社メディアスコープ
- ③ 集計・分析：株式会社エブリプラン

【調査結果】

- 有効回答数672 回答率33.6%
- 男性306、女性342、無回答24

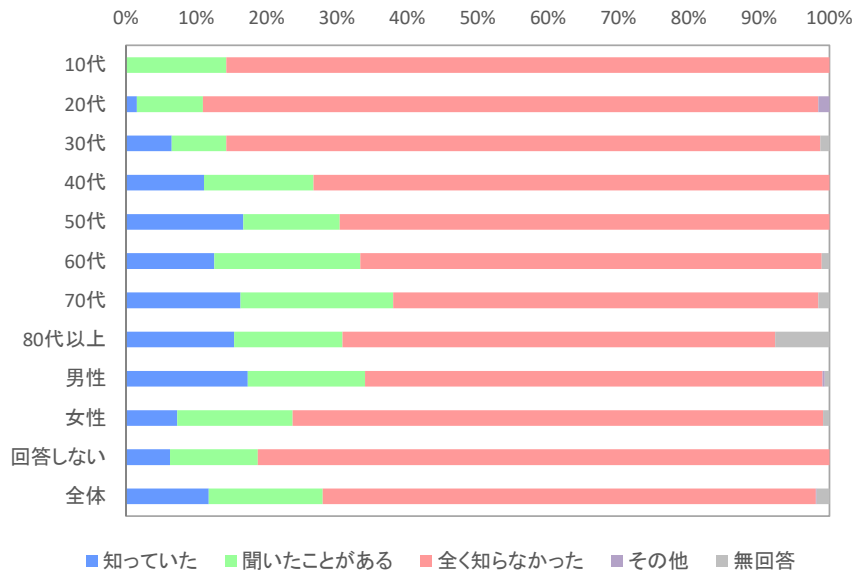
	男性	女性	回答しない	無回答	全体
10代	2	4	1	0	7
20代	30	33	1	0	64
30代	31	42	4	0	77
40代	44	44	2	0	90
50代	42	54	6	0	102
60代	84	97	1	1	183
70代	68	61	0	0	129
80代以上	5	7	1	0	13
全体	306	342	16	8	672



1. 水と緑の森づくり事業（税）の認知度について

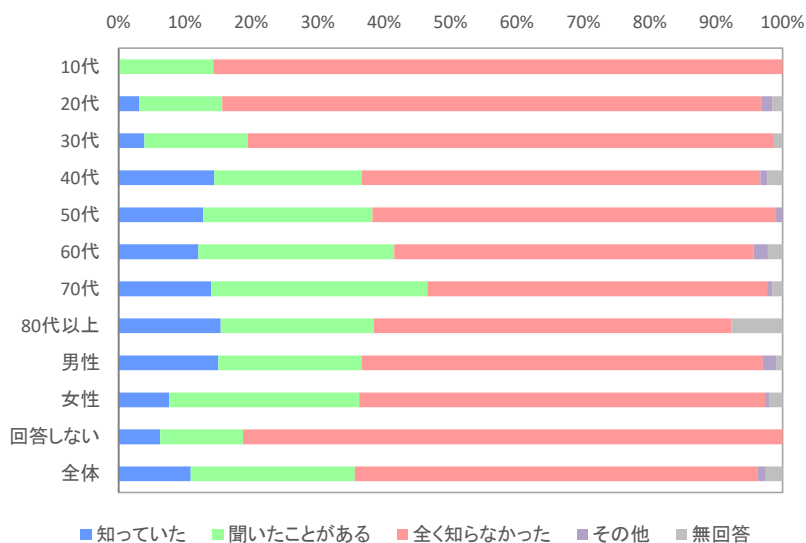
1) 税の認知度

「水と緑の森づくり税」の認知に関しては、「知っていた」12%程度、「聞いたことがある」16%程度、「全く知らなかった」70%程度であり、認知度は高いとはいえない。年齢別には、若齢者よりも高齢者が、女性よりも男性で認知度が高い。また森林を所有しその状況を熟知している人ほど税に対する認識は高い。



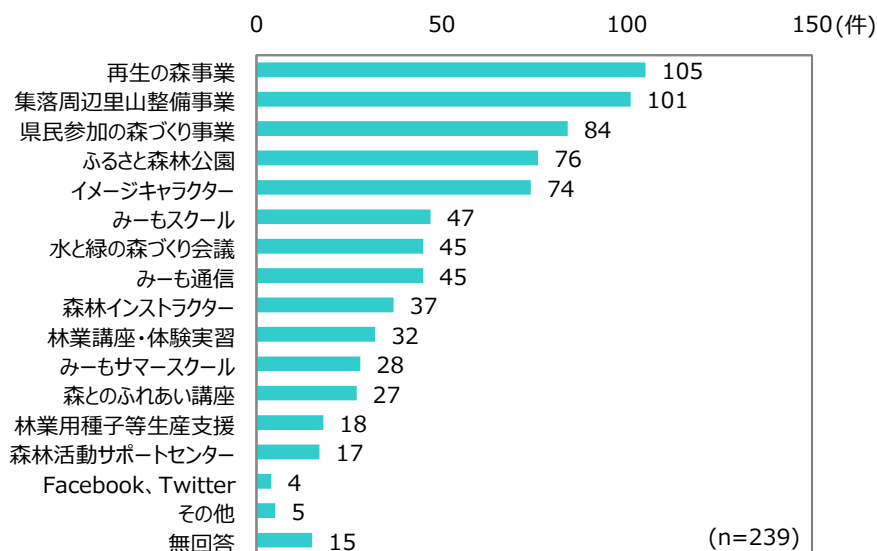
2) 事業の認知度

「水と緑の森づくり事業」の認知に関しては、「知っていた」11%程度、「聞いたことがある」25%、「全く知らなかった」61%である。水森税と同様に年齢別には、若齢者よりも高齢者が、女性よりも男性で認知度が高い。また、森林所有・認識程度別には、やはり森林を所有しその状況を認識している人ほど、認知度が高い。以上のことから、水森事業、水森税は若年層に浸透していないといえる。



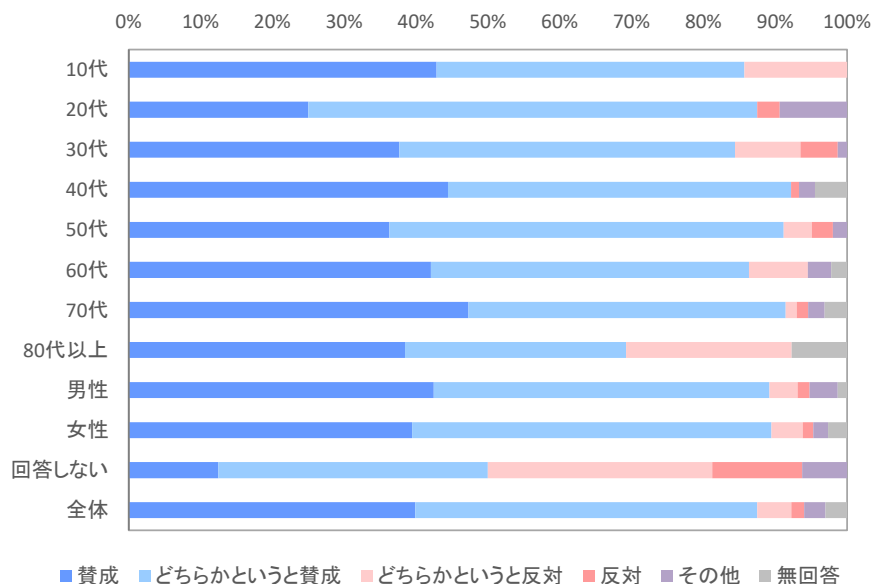
3) 事業別の認知度

水森事業として最も知られているものは、「再生の森事業」であった。この他に「集落周辺里山整備事業」、「県民参加の森づくり事業」、「ふるさと森林公園」、「イメージキャラクター」までは比較的認知度が高い。



2. 水と緑の森づくり税の徴収に対する賛否について

水森税に「賛成」(賛成、どちらかといえば賛成)の割合は、80代以上以外の世代で8割以上であり、水森税の支持率は高いといえる。



3. 妥当と思う税額について

水森税の税額は、年額 500 円である。税額として妥当な額については、現在の「500 円」とするのが最も多く、次いで「1,000 円」である。

表. 妥当な額について

	300円	500円 (現在)	800円	1,000円	2,000円	5,000円	10,000 円	それ以 上	負担した くない	その他	無回答	全体	負担額 平均(円)
10代	0	3	0	2	1	0	0	0	1	0	0	7	786
20代	7	36	4	10	1	1	0	0	3	2	0	64	650
30代	6	35	2	20	1	2	2	0	7	2	0	77	972
40代	6	48	3	17	4	2	2	0	1	4	3	90	1002
50代	6	46	2	26	5	2	3	1	7	3	1	102	1198
60代	14	83	2	46	13	6	2	0	8	4	5	183	973
70代	7	42	12	47	5	4	0	0	3	5	4	129	914
80代以上	1	6	1	2	0	0	0	0	2	0	1	13	508
男性	25	128	14	82	13	9	5	1	13	11	5	306	1037
女性	20	163	12	88	17	8	3	0	13	9	9	342	892
回答しない	2	8	0	0	0	0	0	0	6	0	0	16	288
全体	47	299	26	170	30	17	9	1	33	20	20	672	956

負担額平均…「それ以上」15,000円として計算、「その他」「無回答」は人数から除外

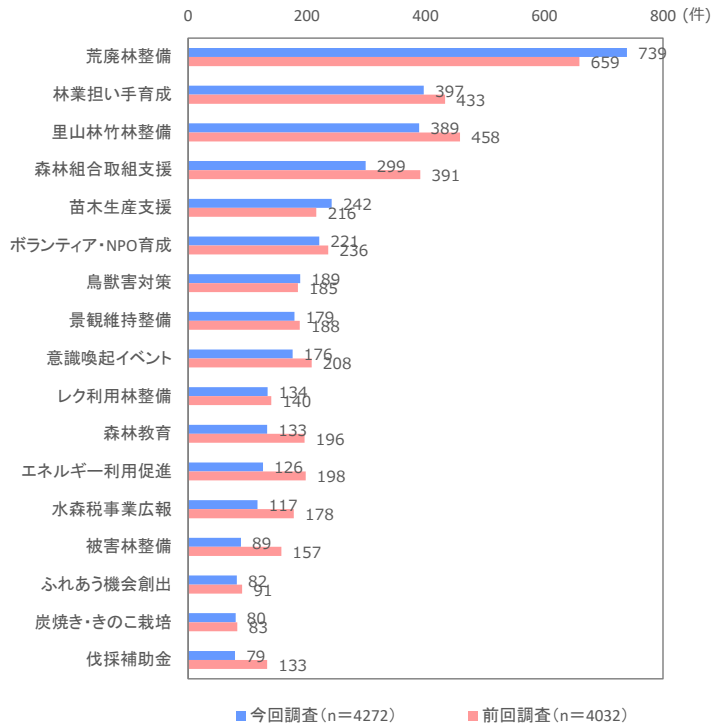
表. 妥当な額（負担額平均）の推移

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
30代以下	798	784	829	721	778	853	968	969
40-50代	814	904	763	907	785	778	980	1143
60代以上	852	813	816	885	900	869	941	826
男	1008	903	850	908	931	923	981	948
女	687	785	754	795	735	770	905	919
全体	815	836	796	843	838	835	942	935

(単位:円)

4. 税の使途として妥当と思うもの

妥当であるとの認識が高いものは順に、「荒廃林整備」、「林業担い手育成」、「里山林竹林整備」などと続いた。また、年齢及び性別による水森事業として妥当なものに大きな違いは見られなかった。よって、荒廃した森林、里山林、竹林の整備や、その整備を実際に行う人への支援を積極的に行うべきだと認識されている。



5. 森林ボランティア活動への参加意向について

高い参加率が期待できるものは「会社などの参加行事」、つまり組織ぐるみの活動である。これらに次いで高い参加が期待できるものは、「子どもと広葉樹植林」「学校行事活動」などであった。逆に参加率が最も下がるのは「本格的森林整備」である。参加の回答が多いものから見ていくと、作業の負担度や、拘束時間で大きく左右されていることがわかる。

